

平成 30 年 11 月のいじめ防止強化月間の取組について

平成 30 年 4 月 1 日に施行された「三重県いじめ防止条例（以下「条例」という。）」では、いじめの防止等に関する県民の理解を深め、社会総がかりでいじめの問題を克服するため、毎年 4 月及び 11 月をいじめ防止強化月間（以下「強化月間」という。）としています。11 月の強化月間中のいじめの防止に向けた機運の醸成や児童生徒の主体的な取組の主な内容は、以下のとおりです。

強化月間に合わせて、県立学校では、高等学校（全日制 54 校、定時制 11 校）65 校中 42 校、特別支援学校 18 校中 14 校が、学校の実態に応じていじめの防止に向けて取り組みました。

1 社会総がかりでのいじめの防止に向けた機運の醸成

(1) いじめ防止フォーラム

日 時：11 月 1 日（13 時 30 分から 16 時 30 分まで）

参加者：約 1,100 人（教職員 500 人 行政関係者 260 人 保護者 110 人 県民 230 人）

内 容

これまでに登録いただいた「いじめ防止応援サポーター」の紹介を行ったほか、高校生によるいじめ防止行動宣言や事業者、スポーツ関係者、保護者、教育関係者、高校生がパネリストとなり、それぞれの立場でいじめから子どもたちを守るための大人の役割について意見交換をしました。子どもたちからは、いじめられていることを言うことはハードルが高いことであり、先生や周りの大人等が変化に気づき行動を起こして欲しいという意見が出されました。大人が自らの言動が子どもたちに影響を及ぼすことを認識して、子どもたちとしっかりコミュニケーションを取り、注意深く観察するなどして、解決に向けて早期に対応することが大切であることが確認されました。

(2) ピンクシャツ運動の推進

学校では、児童会や生徒会が呼びかけるなどして、名札にピンクのリボンをつけたり、ピンクのシャツや小物を身につけあいさつ運動を実施したり、文化祭で保護者と連携して取り組まれました。また、いじめ防止応援サポーターでは、主催のイベントで参加者と一緒に取り組んだり、仕事の際にピンクのシャツを着て接客するなど事業者の特性に応じて取り組まれました。

ピンクシャツ運動に取り組んだ県立学校は、高等学校（全日制 54 校、定時制 11 校）では 65 校中 17 校、特別支援学校では 18 校中 8 校でした。

(3) ポスターによる啓発

掲示場所：県内の学校、大学、高等専門学校、いじめ防止応援サポーター事業所（活動場所）、近鉄主要駅構内等

(4) 映画上映の幕間を活用した啓発

対象映画館：イオンシネマ（東員、桑名、鈴鹿、津、津南）

実施期間：11月2日～30日

(5) いじめ防止応援サポーターの主体的な取組

〈登録数：89事業者・団体・個人（1月11日現在）〉

〈地域交流広場ネットワーク〉

主催のイベント「2018ピンクシャツデー ピンクのシャツを着て集まろう 歌フェス」を11月17日に開催し、参加者にいじめ防止についてのメッセージを付箋に書いてもらい掲示した。また、桑名市社会福祉協議会多度支所長によるいじめ防止アピールを行った。

〈eisuグループ〉

いじめ防止7か条を作成し、県内の全ての教室に掲示し、子どもや保護者へ啓発をしている。また、職員が子どもの様子をよく観察し、サポーターとしての役割を果たすよう努めている。（11月以降継続中）

〈公文式学習塾〉

11月の火曜日、金曜日の教室日にスタッフのべ4名ずつと指導者がピンクの腕輪をはめ、採点指導。来年4月も同様に予定。スタッフがピンクのシャツや腕輪等を身につけ、子どもたちにいじめの防止について話をする機会をもった。

〈相好体操クラブ〉

毎月の社内会議において、各教室の子どもたちの様子について情報交換をする中で、いじめに係る事案については、必ず報告をすることとし、その後の対応について協議し、対策を講じている。

〈小林豊子着物学院分校〉

12月21、22日に主催イベントを実施して、いじめ防止フォーラム会場でのぼりとともに撮った写真とポスターを掲示し、サポーターとして活動を推進していることを来場者に伝え知ってもらった。

〈社会福祉法人A〉

学童保育所支援員（補助員も含む）の研修会を実施し、三重県いじめ防止フォーラムのパネルディスカッションで意見のあったいじめ防止の取組として、①子どもの声に耳を傾ける②大人の役割を自覚する③当事者意識をもつことを伝え、いじめを起こさないポイントや、実践について意見交流した。

〈児童養護施設〉

子どもの人権ノートを活用した茶話会を開催し、職員とともに、人権

について話し合う機会をもった。

《(株) サノプランニング》

従業員がピンクのシャツを着て、来客者に対していじめの防止のための啓発を行った。(11月1日)

《津みなみクリニッククリニック》

玄関、待合室にいじめ防止のポスターを掲示するとともに、クリニックの業務用自動車にステッカーを貼付したり、ホームページへ掲載するなど、啓発を行っている。(11月以降継続中)

《個人》

ピンクシャツ運動のパンフレットを子どもが通う学校に渡し、働きかけたところ、11月30日を学校のピンクシャツデーとし、全校で取り組んだ。3年生では、Tシャツの形にピンク色の紙を切り、いじめについての自分の考えをボードに貼った。

2 いじめの防止のための児童生徒の主体的な取組

《上野高校》

上野市駅前で「ストップ!いじめ 上野高校」と書いたカードを掲げあいさつ運動を実施した。また、生徒会役員と学校がいじめ防止に向けての標語を募集し、優秀作品をポスターやピンクTシャツ作成時の広報用標語として利用した。

11月19日～22日をピンクシャツWEEKとし、教員が、ピンクTシャツ等を着用して啓発を行うとともに、上野駅等で朝の挨拶運動を生徒主体で実施し、駅では啓発ティッシュを一般の方に配布した。

《志摩高校》

生徒会が中心となり、学校全体で3日間のピンクシャツデーを設定した。生徒会がピンクのヘアゴムを全生徒教職員に配付、11月19日～21日の3日間、髪を結んだり、手首にはめたりしていじめ反対の意思表示をした。授業公開週間でもあり、来校者にも運動への参加を依頼した。

《特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校》

文化祭来場者に対して、児童生徒会長が作成した「ピンクシャツデー」の説明と「いじめを無くしたい」とする自分たちの願いを記したメッセージを、ピンクの紙にプリントして配布した。小中学部でも、紙すきの授業で作成した作品にピンクのカードを添えて、来場者に配布した。

《桑名工業高校》

生徒が近隣の企業で出た廃材を活用し、8月の高校生意見交流会で作成された行動宣言とピンク色をあしらったボールペンを啓発物品として製作した。

《宇治山田商業高校》

生徒会執行部が、11月を「いじめ防止月間」として捉え、標語を作成し、全校生徒集会において、現状を伝え、当事者（被害者、加害者）、第三者の視点で説明を行い、全校生徒に「いじめ」の無い学校生活を呼びかけた。

標語「気づこうよ いじめといじりの 境界線」

（11月から12月の期間、教室に掲示）

《宇治山田高校》

8月に開催された「高校生意見交流会」の参加生徒が、2学期終業式で全校生徒にいじめ防止に向け生徒間での話し合いを促した。

また、生徒会役員と美術部・漫画研究部の部員が、ピンク色の缶バッジ等を共同制作し、3学期に全校生徒に配布して、いじめ反対の意思表示をする予定。

《桑名市小学校》

児童集会で総務委員会が『〇っ子 にこにこ5カ条』を発表し、いじめのない学校、一人一人が居心地のよい学校、クラスを目指していくことを呼びかけた。

【〇っ子 にこにこ5カ条】

第1条 相手の気持ちをよく考えて行動する

第2条 わる口を言わない

第3条 自分がやられていやなことはしない

第4条 なかまはずれにしない

第5条 注意されたらすなおにあやまる

《四日市市小学校》

名札にピンクのリボンをつけ、ピンクシャツ運動に参加した。

《人権学びの発表会》

11月4日の標記発表会において、参加生徒がいじめ防止のメッセージを書いたピンク色のガムテープを自主的に制服の上から貼り、会場全体でピンクシャツ運動に参加し、いじめ反対の意志表示をした。

3 児童生徒等がいじめの防止の重要性の理解を深めるための教育・啓発

《四日市中央工業高校》

文化祭でPTA役員がバザー（焼きそば販売）でピンクのシャツを着て、いじめ反対の意思表示をした。オープニングでは校長がピンクのシャツを着て、いじめ撲滅の話とピンクのシャツ運動について話をした。

《かがやき特別支援学校緑ヶ丘校》

「ピンクのかがや木」運動と題し、院内学級を除く全校児童生徒の手形をピンク色で取り、画用紙に描いた木に貼り付けていった。また、友だちにしてもらって嬉しかったことを別紙に記入し、木の幹に貼り

付け、他学部との交流を図るとともに他者や家族への思いやりや感謝の気持ちを育んだ。

《桑名高校定時制》

Line 株式会社の社員のワークショップ形式の講演を聞いた。講演では、言葉カードや写真カードを使い、どのように感じどのように受け止めたかを体験するとともに、一つの写真から読み取ることができる情報を探し、写真を掲載する注意点や情報の知識を体験し、個人で文字や写真など、感じ方や受け止め方が違うことも体験した。

《松阪市中学校》

廃品収集で地域の方との関係を深め、地域で気になることがあれば連絡をいただくようにした。また、家庭・地域向け啓発資料を保護者には全員、地域には約700の自治会に回覧を依頼し、いじめ撲滅に向けた協力を依頼した。

《伊賀市中学校》

文化祭で、「いじめ防止にかかる中学生交流会」参加生徒がその内容について発表し、生徒、保護者、地域の方々に対して、いじめについて考える機会とした。

4 今後の取組

今後、強化月間中の主な取組については、県教育委員会のホームページ等で紹介していきます。

4月と11月の強化月間では、いじめ反対の意志表示をするピンクシャツ運動を推進するとともに、メディアの活用や様々な機会を利用していじめの防止に向け機運の醸成を図るための啓発を進めます。

学校においては、4月は環境が変わる節目の時期であることから、入学式や始業式、学級開き、PTA総会等の場を利用して児童生徒や保護者に対して、いじめの防止等の重要性に関する理解のための啓発を行うよう学校に対して周知していきます。また、いじめの防止に向けた意識を改めて醸成する機会と捉え、いじめの防止に向けた学校・学級目標を設定するなどして、児童生徒一人ひとりが自らの行動を考える機会とします。11月は、各学校の教育活動に基づく主体的な取組の推進や家庭や地域と連携した取組を進めます。

社会総がかりでいじめの問題を克服するため、今後もいじめ防止応援サポーターの拡大に努めるとともに、サポーターと連携し、各サポーターの特性に応じた主体的な取組が進むよう働きかけてまいります。